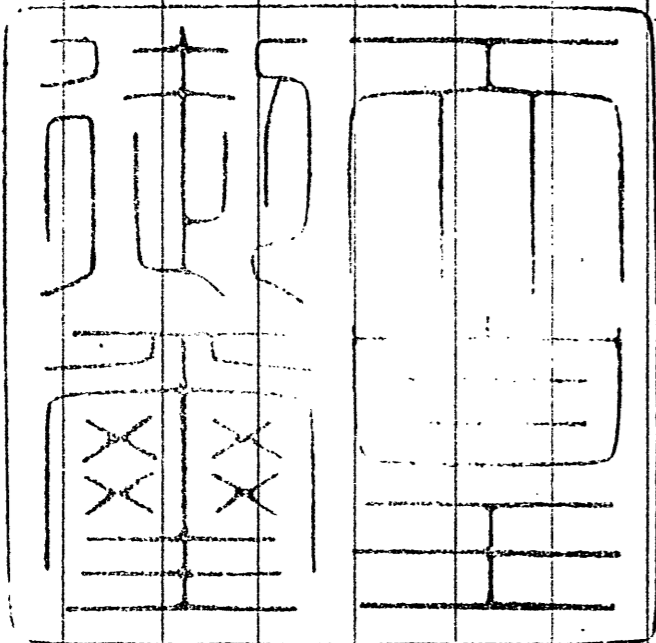


總

勅令第九十四號

朕官吏任用叙級令施行ニ伴フ文武判任官
等級令廢止等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム

裕仁



日

月

昭和二十一年四月一日
 内閣總理大臣男爵幣原喜重郎

總
 務

勅令第百九十四號

第一條 左ニ掲グル勅令ハ之ヲ廢止ス

文武判任官等級令

明治二十四年勅令第七十號

大正十一年勅令第三百十五號

大正十一年勅令第四百三十一號

大正十一年勅令第四百三十二號

昭和三年勅令第二十七號

昭和十六年勅令第一千二百二十八號

昭和十八年勅令第五百八號

内
 閣

恩

昭

昭和十八年勅令第六百三十四號

第二條 判任文官特別任用令中左ノ通改正ス

題名ヲ左ノ如ク改ム

三級官吏特別任用敍級令

第一條第二項中「大東亞省」ヲ「外務省」ニ改ム

第四條ノ二ヲ削ル

第六條中「判任文官」ヲ「モノ」ニ、「内閣統計局集計書記」ヲ

「監獄ノ看守又ハ矯正院ノ補導タル司法事務官、司法技官及司法教

官」ニ改メ、「逓信院屬補」ヲ削ル

逓信局書記補

第三條 地方待遇職員令中左ノ通改正ス

第一條中「高等官待遇」ヲ「二級官待遇」ニ、「判任官待遇」ヲ

「三級官待遇」ニ改ム

第二條中「高等官待遇」ヲ「二級官待遇」ニ、「文官任用令第五條

第一項ノ規定ニ依リ高等文官」ヲ「官吏任用敍級令第五條第一項第

一號乃至第三號ノ規定ニ依リ二級事務官吏」ニ、「各其ノ」ヲ「其

ノ」ニ、「判任官待遇」ヲ「三級官待遇」ニ改ム

第三條中「高等官待遇」ヲ「二級官待遇」ニ、「各其ノ」ヲ「其ノ」

ニ、「判任官待遇」ヲ「三級官待遇」ニ改ム

第四條中「判任官待遇」ヲ「三級官待遇」ニ、「文官任用令第六條

ノ規定ニ依リ判任文官」ヲ「官吏任用敍級令第四條第一項第一號乃

内
内
内

至第八號ノ規定ニ依リ三級事務官吏ニ、「各其ノ」ヲ「其ノ」ニ
改メ「第二號又ハ」ヲ削ル

第五條中「判任官待遇」ヲ「三級官待遇」ニ、「各其ノ」ヲ「其ノ」
ニ改ム

第七條及第十一條第五項中「高等官待遇」ヲ「二級官待遇」ニ、「高
等官」ヲ「二級官吏」ニ、「判任官待遇」ヲ「三級官待遇」ニ、「判
任官」ヲ「三級官吏」ニ改ム

第八條 削除

第十條 削除

第十二條中「高等官」ヲ「二級官」ニ、「判任官」ヲ「三級官」ニ改ム

別表中「奏任官待遇」ヲ「二級官待遇」ニ、「判任官待遇」ヲ「三
級官待遇」ニ改ム

第四條 第一復員及第二復員部内職員令中左ノ通改正ス

「第一復員官

第一復員理事官

第一復員技師

第一復員技師

「第一復員事務官
第一復員技官
ニ改ム

「第二復員官

第二復員理事官

第二復員技師

第二復員技師

「第二復員事務官
第二復員技官
ニ改ム

大

日

第三條 第一復員事務官及第二復員事務官ハ一級、二級又ハ三級トス

第一復員技官及第二復員技官ハ二級又ハ三級トス但シ第一復員大

臣又ハ第二復員大臣ノ定ムル員數ヲ限り一級ト爲スコトヲ得

第四條乃至第七條 削除

第五條 普通試験令中左ノ通改正ス

第一條中「判任文官ノ任用」ヲ「三級ノ事務官吏ノ任用及叙級ノ」ニ改ム

第四條中「中學校」ヲ「中等學校」ニ改ム

第六條 政府職員共済組合令中左ノ通改正ス

「奏任文官」ヲ「二級官吏」ニ、「判任文官」ヲ「三級官吏」ニ改ム

第七條 内國旅費規則中左ノ通改正ス

別表中六等以下ノ項ヲ削リ「勅任官」ヲ「一級官吏」ニ、「判任官」

ヲ「三級官吏」ニ、「^{奏任}五等以上」ヲ「二級官吏」ニ改ム

第八條 外國旅費規則中左ノ通改正ス

「勅任官」ヲ「一級官吏」ニ、「奏任官」ヲ「二級官吏」ニ、「判任

官」ヲ「三級官吏」ニ改ム

別表中六等以下ノ項ヲ削リ「^{奏任}五等以上」ヲ「二級官吏」ニ

ニ改ム

第九條 南洋群島關東洲^{南洋}旅費規則中左ノ通改正ス

「勅任官」ヲ「一級官吏」ニ、「奏任官」ヲ「二級官吏」ニ、「判

内 閣

恩

内

日

任官「三級官吏」ニ改ム

別表中六等以下ノ項ヲ削リ「

任官

五等以上

」ヲ「

二級官吏

」

ニ改ム

第十條 朝鮮臺灣樺太關東洲滿洲及南洋群島在勤文官加俸令中左ノ通

改正ス

「高等官」ヲ「一級又ハ二級ノ官吏」ニ、「判任官」ヲ「三級官吏」

ニ、「六級俸以下ノ判任官」ヲ「三十七號俸以下ヲ受クル官吏」ニ

「七級俸以下ノ判任官」ヲ「二十九號俸以下ヲ受クル官吏」ニ改ム

第十一條 明治三十三年勅令第三百三十二號中左ノ通改正ス

「文官判任以上」ヲ「官吏」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ官吏ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十二條 明治三十三年勅令第二百七十三號中左ノ通改正ス

第一項「准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任以上ニ任ヤラレ

タル場合ニ於テ」ヲ「明治三十三年勅令第三百三十二號ノ適用ヲ受ク

ル官吏ニ付」ニ改ム

第十三條 明治四十三年勅令第二百七十五號中左ノ通改正ス

第一條中「文官任用令第五條ノ規定ニ依リ奏任文官」ヲ「官吏任用

敍級令第五條第一項第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ二級官吏」ニ

「同令第六條ノ規定ニ依リ判任文官」ヲ「同令第四條ノ規定ニ依リ

三級官吏」ニ改ム

恩

内

昭

憲

第二條中「奏任官」ヲ「二級官」ニ、「判任官」ヲ「三級官」ニ改ム

第三條中「奏任官」ヲ「二級官」ニ、「判任官」ヲ「三級官」ニ改ム

第十四條 大正十年勅令第二百二十三號中左ノ通改正ス

第一條中但書ヲ削リ「高等官官等俸給令別表第二表第一號、第三表及第五表ニ依ル奏任文官ニシテ引續キ五年以上高等官三等ニ在職シ」ヲ「十一年以上引續キ二級官吏ノ職ニ在リ」ニ、「勅任官」ヲ「一級官」ニ改ム

第二條中第三項ヲ削リ「判任文官ニシテ引續キ五年以上一級俸ヲ受

ケテ在職シ」ヲ「十一年以上引續キ三級官吏ノ職ニ在リ」ニ、「奏任官」ヲ「二級官」ニ改ム

第十五條 昭和十八年勅令第三百三十八號中左ノ通改正ス

第一條第一項中「若ハ大公使館調査官」、「又ハ昭和十年勅令第二百三十六號別表」及「官等ニ依リ」ヲ削リ「最高官等ニ付定ノラレタ額」ヲ「~~一~~最高額」ニ改メ同條第三項中「外務電信書記生又ハ大公使館技手」ヲ「又ハ外務電信書記生」ニ、「判任官特別俸又ハ一級俸」ヲ「二十號俸以上ヲ受クル」ニ、「判任官二級俸乃至四級俸」ヲ「二十號俸乃至二十五號俸ヲ受クル」ニ改ム

第八條 他ノ勅令中二級官吏、三級官吏若ハ三級官待遇職員ヲ以テ

充ツル職又ハ此等ノ官吏若ハ職員ヲ以テ兼ネシムル官若ハ職ニ關スル規定及閣令ヲ以テ定ムル規定ノ適用ニ付テハ各應職員優遇令ニ依リ一級官吏、二級官吏又ハ三級官吏ニ任用又ハ叙級セラレタル者ハ夫々二級官吏、三級官吏又ハ三級官待遇ノ職員タル者ト看做ス

第十六條 本令施行ノ際現ニ廢官ト爲ラザル官ニ在官スル者ハ別段ノ辭令ヲ發セラレザルトキハ勅任ノ者(親任ノ者ヲ除ク)ハ一級ニ、奏任ノ者ハ二級ニ、判任ノ者ハ三級ニ叙セラレタルモノトス

第十七條 本令施行ノ際現ニ勅任官待遇、奏任官待遇又ハ判任官待遇ノ職員タル者ハ別段ノ辭令ヲ發セラレザルトキ又ハ本令施行ノ日ヨリ施行セララルル他ノ勅令ニ依リ官吏ニ任用セラレザルトキハ夫々一

級官待遇、二級官待遇又ハ三級官待遇ノ職員ニ任セラレタルモノトス此ノ場合ニ於テ其ノ者ガ休職中ノ者ナルトキハ休職ノ儘前段ノ例ニ依リ任セラレタルモノトス

第十八條 本令施行ノ際現ニ勅任官(親任官ヲ除ク)、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ハ別段ノ辭令ヲ發セラレザルトキハ夫々一級官、二級官又ハ三級官ノ待遇ヲ受クルモノトス

第十九條 本令施行ノ際現ニ存スル勅令中勅任^{奏任}判任、勅任官、奏任官、判任官、高等官、勅任官ノ待遇、奏任官ノ待遇及判任官ノ待遇ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一級、二級、三級、一級官吏、二級官吏、三級官吏、一級又ハ二級ノ官吏、一級官待遇

内
外

勅令第百九十四號

二級官待遇及三級官待遇ニ關スル規定トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
文武判任官等級令ノ廢止ニ拘ラズ判任武官ノ等級ニ關シテハ舊令ハ仍
其ノ效力ヲ有ス

總